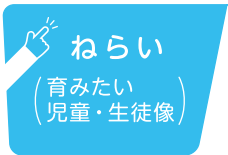




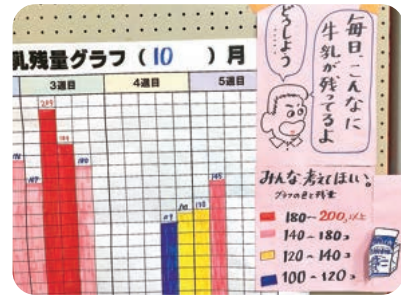
給食フードロスへの取り組み

北谷町立北谷中学校

〒904-0105 沖縄県中頭郡北谷町吉原480 ☎098-936-3929



自分たちの給食の食べ残し(特に牛乳)を減らすために、グループのメンバーと協力して生産者の思い、給食センターの皆さんの思いをくみ取り、自分ができるフードロスへの取り組みとして「給食を食べ残さない」ができる。



授業・実践内容 【実践者】末吉安次教諭

- ▶ 1時間目 / SDGsの目標、概論学習(ワークシート)
- ▶ 2時間目 / 学級ごとに ①世界の現状と課題(発展途上国)
 - ②日本の現状と課題(都市部・地方)
 - ③沖縄の現状と課題(都市部・へき地)
 - ④北谷町内の学校の現状と課題(4小学校)
 - ⑤町内の学校の現状と課題(2中学校)についてグループで調べ学習
- ▶ 3時間目 / 引き続き調べ学習とパワーポイント作成
- ▶ 4時間目 / ゲストティーチャーを招いて講話会(各課題に分かれて)
- ▶ 5時間目 / パワーポイント作り、発表準備
- ▶ 6時間目 / 学級発表会(学級代表を選出)
- ▶ 7時間目 / 学年発表会(zoomにて視聴)

教科	総合的な学習の時間
対象	2学年(180人)
時間	7時間



フードロスについて各国、各地域の現状について理解することができた。食に関わるいろいろな立場の人たちの思いを聞いて、自分たちが取り組めることを考えることができた。集めた情報を整理・分析してまとめ、パワーポイントを使って分かりやすく表現できた。

教員の反応・変化 給食の残量問題やフードロスという身近な課題に取り組むことで、教員、生徒ともESDやSDGsを意識して取り組むようになり、授業実践の意欲も高まった。

課題 地域連携等を通して社会に開かれた教育課程の実現を図るねらいもあったが、コロナ禍で地域の公民館と連携できないなど、学習活動にさまざまな支障が出るが多々あった。



- ▶ ICT機器 (iPad) ▶ ワークシート
- ▶ 食品ロスの削減・食品廃棄物の発生抑制(農林水産省HP)
- ▶ 食べもののムダをなくそうプロジェクト(消費者庁HP)
- ▶ もったいない! 無くそう食品ロス 発生した食品循環資源はリサイクルへ(沖縄県リーフレット)





持続可能な地域を創生する人材と態度の育成 ～生徒会活動を通して～

浦添市立浦添中学校 ◆〒901-2103 沖縄県浦添市仲間2-46-1 ☎098-877-2066

ねらい
(育みたい
児童・生徒像)

集団の一員として学級や学校でよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度や健全な生活態度を育てる生徒会活動を通して、持続可能な地域の創生に必要な資質能力であり、本校の目指す生徒像でもある「自ら『気づき・考え・行動する生徒』～持続可能な社会を創る生徒～」の育成を図る。

授業・実践内容 【実践者】森田英樹教諭、仲村竜太教諭

生徒会執行部および専門委員会が、自分たちや社会の課題を解決しようとする企画をSDGsと関連させて主体的に計画し、互いの委員会や委員会と学級が連携して実践した。

【実践例】▶執行部「誰1人取り残さない3愛プロジェクト」

- ▶美化委員会「校門前花文字・学級園を充実させよう」
- ▶図書委員会「平和について考えよう(6月)」
- ▶保健委員会「水を大切にしよう」
- ▶ボランティア委員会「ペットボトルのキャップを集めて、一人でも多くの人にワクチンを」
- ▶給食委員会「牛乳の飲み残しを減らそう」
- ▶放送委員会「朝の人権放送や給食時にSDGs記事を紹介しよう」など

教科	特別活動
対象	1～3学年
時間	年間を通じた活動



子どもの
反応・変化

5月の生徒アンケートから、SDGsについて85%の生徒が認知し、意識して行動できている生徒が54%で行動面で課題があった。12月には90%以上が認知でき、73%が意識して行動できるようになったと答えている。社会問題に対しても意識が高まり貢献していこうとする態度や、学校課題にも互いに協力して解決していこうとする態度の向上が見られた。JICA沖縄主催SDGsフォトコンテストで県知事賞を受賞。広くSDGs発信の行動を起こしている。

教員の反応・変化 SDGsを「環境を大切にしよう」ととらえていた教師もいたが、これらの生徒会活動により、SDGsは持続可能な社会の創り手への資質・能力・態度の育成につながることを教職員全体で共有できた。生徒が課題に向き合い、主体的に活動できるようになったことに大きな成長を感じている。

課題 コロナ禍の臨時休校や行動制限のため、企画したことが予定通りに取り組めないこともあった。しかし「この条件下でできること」を考えることによって、生徒の主体性を高めることができた。次年度はSDGsが目指す人材育成をさらに継続・発展させたい。また地域連携を進め、地域に貢献しようとする人材や態度の育成を推進したい。

教材・参考資料

- ▶「SDGs(持続可能な開発目標)」(蟹江憲史著、中公新書)
- ▶「私たちが作る持続可能な世界」(Unicef、外務省)
- ▶「マンガで学ぶSDGs なんのために働くの?」(蟹江憲史 監修、金の星社)



「不便益」×SDGs

南風原町立南風原中学校

〒901-1111 沖縄県島尻郡南風原町兼城780 ☎098-889-2095

ねらい
(育みたい
児童・生徒像)

目的に応じて必要な情報に着目して要約しながら「不便の価値を見つめ直す」という筆者の主張を理解した上で、自分の考えを根拠を明確にして伝えることができる。



授業・実践内容 【実践者】大城真紀子教諭(左)、仲宗根美穂教諭(右)

分散登校時の対面オンラインハイブリット授業下における実践

- ▶ **第1時** / 教材文を読み、筆者が定義している「不便益」を捉える
- ▶ **第2時** / 段落ごとに中心となる文を探し、要約する
- ▶ **第3時** / 筆者の考えを要約し、身の回りにおける「不便」と「不便の良さ」を考える
GooglemeetとJamboardを使ってグループで話し合い、発表する
- ▶ **第4時** / 自分たちが見つけた「不便益」と、SDGsとの繋がりを考える
個人でJamboardにまとめ、発表する

教科	国語
対象	1学年 (300人)
時間	4時間



環境関連に偏るのではないかとという教師の予想を超えて、多様なゴールとの関連が図られた。「ごみの分別は不便だが、環境がよくなるので、まちづくりにつながる」「和式トイレは不便だが、肌に直接触れないので、衛生的にいい」といった視点があり、「普段の生活にもSDGsとつながることがたくさんあった」とSDGsは普段の暮らしの中にあるという気付きもあった。

教員の反応・変化

SDGsの授業という「大きなことや新しいことをしなければならない」「教科によって取り組みやすさが違う」と感じる先生方も多い。SDGsを教えるのではなく、普段の授業の中でSDGsとのつながりを考えてみると、すべての教科につながることが分かった。おのずとカリキュラム・マネジメントとの関連にも気付き、学校全体でSDGs達成への実践を行う雰囲気になった。

課題

教師も生徒も多様な場面でSDGsを意識するようになったため、課題意識が高く、各教科の見方・考え方を活用して、よりよい生き方や考え方を求めようとする姿が見られる一方、考えることに終始して「アクション(行動)」への意識が弱い。学級や学年、委員会といった組織での具体的な実践を考えていく必要がある。

教材・参考資料

- ▶ 「『不便』の価値を見つめ直す」(川上浩司著、「国語1」光村図書より)
- ▶ 「不便益のススメ 新しいデザインを求めて」(川上浩司著、岩波ジュニア新書)
- ▶ 「SDGsスタートブック」(Edu Townより) ※総合的な学習の時間に全校生徒に配布

